

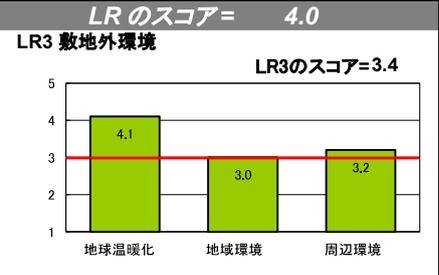
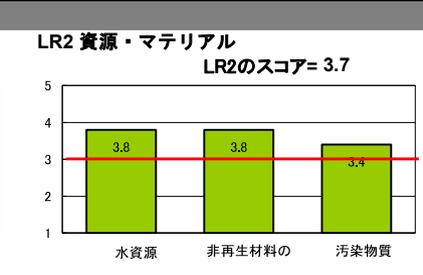
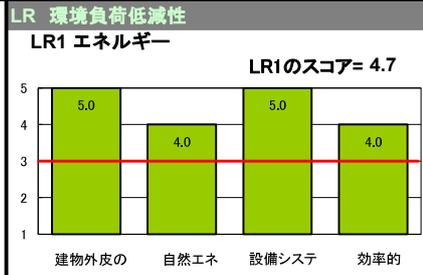
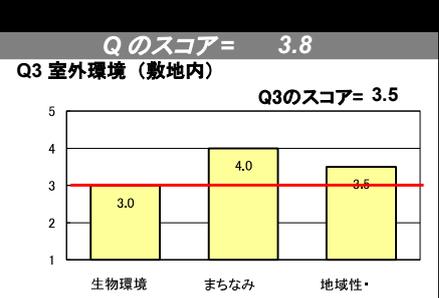
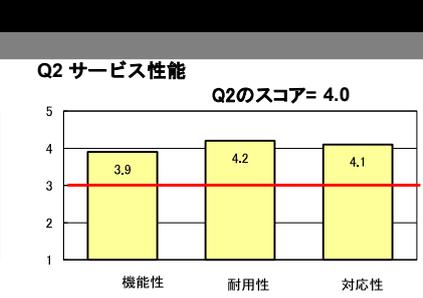
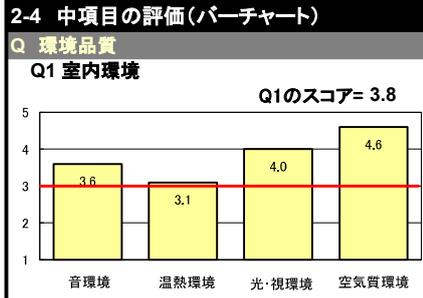
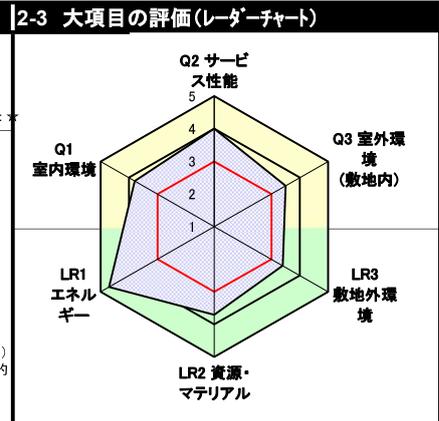
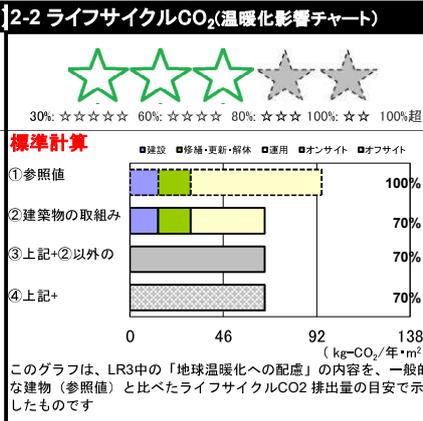
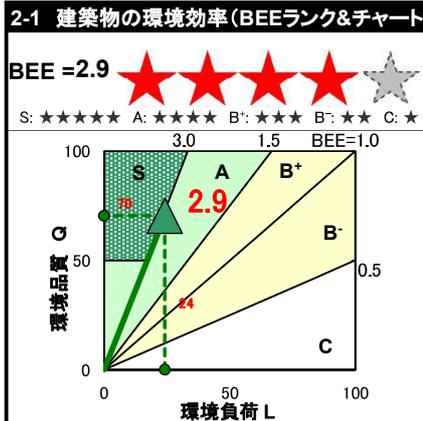
CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要	
建物名称	千葉県企業局庁舎
建設地	千葉県千葉市
用途地域	商業地域、防火地域
地域区分	6地域
建物用途	事務所
竣工年	2026年1月 竣工
敷地面積	2,685 m ²
建築面積	1,776 m ²
延床面積	13,320 m ²

階数	地上9F、地下1F
構造	S造
平均居住人員	650 人
年間使用時間	2,600 時間/年(想定値)
評価の段階	竣工段階評価
評価の実施日	2026年1月30日
作成者	山崎貴幸
確認日	2026年1月30日
確認者	市川卓也



3 設計上の配慮事項

総合	その他
分散していた千葉県企業局の各組織を集約する計画である。中庭を介した自然換気・通風、庁舎南側に設けた企業局ひろばを中心に緑地を設ける等、自然環境を考慮した。	高潮時に想定最大浸水深3~5mの浸水が予想されるため、免震装置は浸水深より高い位置に中間層免震として計画した。
Q1 室内環境 南・西側に開口部を設けるとともに、遮音性能に配慮した。内装材はフォスター対応とし、CO ₂ 監視を行うシステムを導入した。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内の緑量を確保した。また西側に隣接するモノレールについて、近接するフロアに執務室ではなく会議室を設ける、西側にルーバーを設置する等、モノレール側からの見え方も意識した計画とし
LR1 エネルギー 外皮性能の向上や、照明のLED化等により、建物の熱負荷を最小限に抑える計画とした。太陽光発電や自然採光・自然通風など自然エネルギーも積極的に活用できる計画とした。	LR3 敷地外環境 運用CO ₂ の低減や、敷地・屋上の緑化など周辺環境に配慮した計画とした。窓面については外側にルーバーを設けることで反射の影響を低減する計画とした。
Q2 サービス性能 各階にラウンジを設け、利用者の快適性に配慮した。中間層免震の採用、災害等でインフラが途絶しても各種設備が稼働可能な計画とすることで、BCP性能を高めた。	LR2 資源・マテリアル 既存地下躯体(外周部)を土留めの壁として再利用する計画とした。躯体・内装を切り分けられる計画とし、また、内装木質化も行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される